

特集

この本と私



「ル・パスタン」

池波 正太郎 著

『ル・パスタン』直訳すると「気晴らし」という意味のフランス語。でも作者は「小さな楽しみ」と表現しています。作者にとつての楽しみは、子供の頃に食べた旨いもの、お芝居にフランス旅行などなど。一冊の本の中に「小さな楽しみ」がいくつも詰まっています。元々、テレビの鬼平犯科帳が好きで、その原作者が時代物以外にどんな話を書くんだろ？と興味津々で読み始めました。あの鬼平の原作者だから、きつと「江戸の粋」がたっぷり・・・と思いきや、大好きだったおやつや父親と入った洋食屋の話（きつと食いしん坊に違いない！）フランス旅行が好きなのハイカラな面など、バラエティに富んでいます。そして、一話ずつ作者が自分で描いた挿絵がついていて、まるで、大人の絵日記を読んでいるようです。

この人は、とても普通の視点で、でも細やかに丁寧に、日々の暮らしの中で目に映るもの、手に触れるもの、一つ一つを確認して、自分の「好き」「嫌い」を確定していく。好きなものだけに目を向けるのではなく、不快に感じることも目を背けない。しかも、作品として発表する。年齢を経てなお、柔らかい感性を持ち続け、全てを自分で決定する。なんて素敵なことだろう。読んでいて「毎日の生活に根付かない『楽しみ』はないのだよ」とおじいちゃんの声が聞こえるようでした。

三谷



文春文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞